

# 採點者

櫻山人

言靈学には三つの大きな特徴がある。第一はそれが従来の学問のやうに、未だ存在しないものと未達の理想に向つて創作して行く學問ではないことである。即ち言靈学は未開地である自然もしくは混沌の中から誰に断はる必要もなく各人が勝手に材料を取つて来て、工夫し組織する學問ではなくして、呪文咒事の形式を以て現存してゐる所の、過去にあつた理想を、現在から未來に向つて復元して行く學問であるといふことである。第二は言靈の原理は十四個の言語の原音と十の數理から成立してゐる明白簡潔なものであるから、言靈学では研究未到のための不明瞭さは暫時許されても、胡麻化しは絶対に利かず、異説は絶対に立てられぬ學問であることである。第三は言靈の権威(教権)の所在が昔から定まつてゐるといふことである、その教権の淵源は言ひまでもなく天皇に在る。

他の學問にはないところの此の三つの大き

な特徴があるために、此の學問に携はる學者、紹介者、宣伝家の態度と従来の他の學問に対する態度との間には、大きな差異、差別がなければならぬものである。だが現在を言靈學に關する學者、紹介者、宣伝家と稱する者達の中に、此の學の特質性が判つて居らぬ連中がある、従来の混沌の學問に對すると同様な輕率な心構へを以て此の學に對してゐる連中が多い。

言靈學は過去にあつた理想を復元する學である。凡そ其の宗教は、キリスト教でも佛敎でも佛敎でも、その理想は過去にある。エテンの國も極樂國土も元王の道もすべて過去に於て完成されてゐるものである。これ等と同じ意義と内容をもつて言靈學も過去所謂神代に於て日本の皇祖が完成した生命理論の全体系を言靈學であり、しかもその内容は呪文の形式——現在の我々から見れば呪文と考へられる形式の中に秘められてはあつたが、古事記、

日本書紀、經詞、風土記、古代の歌集等の中に完全な体系をもつて保存されてある。乃至日本のあらゆる祭典の形式、風俗習慣、伝説、民謡等の中にもその断片が伝承されてゐる。呪文の形で言靈學が保存伝承されてゐると

いふ事は、學へは數學の教科書の卷末に練習問題の答へが記されてあるやうなものである。言靈は各自の生命の内容であるから、中途の運算の工夫は各自がめい／＼その修業としてやらなければならぬことであるが、そのめいめいの運算の結果が従来の答へである呪文咒事にびたりと一致して来るのでなければその修業は本當の修業ではない。斯くして一人より二人、二人より三人、多數人、全國民、全世界が一つにまとまる時である。

或者は言靈學は特殊な學問であり、特殊の學者だけが研究すべきものであり、その研究家があらゆる社会的を困難や因縁の葛藤と戦ひ乍らこれ完成することに意義があるものであると考へる。この考へは普通と特殊とを混同した間違つた考へである。たとへばキリスト敎の愛の教義はキリスト敎徒だけが困難や迫害と戦ひながら實踐履行すべきものと考へることと同様を誤りである。人類は元來すべ

てキリストが説く如き愛の宗教の優越をなす  
ればならぬものである。言霊学は日本人が考  
つて力を併せて研究しなければならぬ。日本

人が眞の日本人たる資格を具備する上の根柢  
を在す学である、特殊の人間のみがやる学問  
ではない。そこで言霊の存在と意義を耳にし  
ながら、みづから研究しやうとせず、協力せ

ず、言霊研究者が立たされてゐる社会的な困  
難な立場を神の試練であると冷笑したりして  
拱手傍觀の態度をとらうとする者は、みづか  
ら日本人たるの資格と、世界に對する日本人

の責任を放棄するものと言つてよい。愛の使  
徒でない者をキリストはキリスト教徒として  
認めないだらう如く、斯の如き日本人は皇祖  
の神々は天孫民族として認めないだらう。他

のすべての歴史的、民族的特性を揚棄否定し  
た後、言霊こそ天孫民族の最高の特權であり  
義務である。聖徳太子は斯く教へてゐる

上古は日本天那印度の三國皆神人なり、正  
直にして足る。中古は曲も、仁義の功に非  
れば治むるに由なし、末世は悉く邪なり、

國異を知らざれば制するに據なし  
正直の内容は誠である、説の實体は眞言すな  
はち言霊である。言霊は神教の説く因果を場

棄し、儒教が教ふる仁義を揚棄した老子の謂  
ふところの大道の内容であることに思ひを致  
して讀みたい。

言霊学は咒文の形体ではあるが、その完成  
され天体系が嚴存する過去の理想の学である  
から、これに對する研究者の態度には最大の  
慎重が必要である、その慎重の意義は謙虚

と反省と協力である、その方法としては先づ  
何處までも自己の独断を排除することに努  
むなければならぬ。多くの人間はその道徳的

素質——因縁によつて限られた視野の範圍内  
の判断しか出来ぬものである。啓示的に浮ぶ  
直観といへども此の範圍を越える場合は稀で

ある、この独断を独断のままでは押し留め  
ておいて謙虚の意義である、独断を独断の保つ  
へる時、それが答へに一致してゐるならよい

であらうが、若し間違つてゐる場合は、正直  
な聴聞者がその間違ひをみづから発見するに  
到るまでは迷ひ続けなければならず、その間

世の中さ暗くし、學問の完成を遅らせる罪を  
造ることになる。言霊がまことの實体である  
ことを猶も時時断斷の誤りを教へてやる、  
これは一例であるが、最近發行されたある  
宗教団体の言霊紹介の冊子の中に、日本の神

拜形式は三拍手を以てすなりであるといふ  
れであることを人から指摘されて意外に思つ  
た。昔から日本では拍手の数は二、四、八等

の二の乗積數に定められてゐる。この習慣は  
今日に到るまで數千年間日本人が繰返し傳承  
して来た、言ひまでもなく日本の國體道は太  
白(フトマニ)と根柢とする。フトマニとは

二十個のマニ名の數である、その義は佛陀と  
も相通する、この二十の數理を十指による二  
拍手の乘積數を以て咒示することが祭典の形  
式の意義である。これを三拍手とするのは甚

しい異端の說であつて、これでは日本の天孫  
日嗣の意義である太(ヒツギ)といふことも  
佛陀の意義も同時に根柢から成立しないこと  
になつて、今日まで何十億の日本人が歴史を

通つて繰返へして来た祭典が無意義になる、  
その三拍手の唱導者は自分の古くからの知合  
ひであるから、念ふ度毎に自分はその人に向  
つて態度をなくその非なることを説いて忠言  
を繰返した。

その人の説によるとキリスト教では「ホー  
リー・ホーリー、ホーリー」と三度唱へるが  
日本の拍手も三位一體式の三拍手でなければ  
ならぬといふ。これは甚だしい独断と言

はなけれはならぬ。ユグヤの古式にも拍手の  
ことがあつたやうだが三拍手ではなかつた筈  
だ。キリスト教でも三拍手は用ひまいと思ふ。  
これは祭典の呪示形式を無視し原理に合致せ  
ぬ拍手である。自分は以上の様に翌を説明し  
て反省を促したが、その人は自説を主張して  
肯かうとしなかつた。そして最後に三拍手を  
その宗教団体に於ける神拝の夏本形式として  
冊子にして發表してしまつた。まことに遺憾  
なことである、これに對して改めて右の様に  
理を説いてその誤りを訂正するより以外に拾  
收の道がなくつたことを残念に思ふ。

自分はもとよりその冊子の言靈宣伝の意圖  
は多としてゐる心算である、三拍手の行事を  
以て出發する言靈学の紹介ではその紹介の内  
容全部が學問的に成立しないことになる。毎  
斗麻近が成立しなれば言靈学は成立しない、  
これは團體に對する學的破壊である。數理の  
上で既に成立しない言靈学を一体何の目的を  
以て宣伝するのだらうか。誤つた説きせぬ中  
に流弊するとなか／＼消えないものである。  
これはその人達の名譽のためにも甚だ惜しむ  
べきことであつて、發行した書物の最後の一  
冊が世の中から忘れ去られるまでには相當の

期間を要する、その間は不名譽を世間に蒙り  
てゐることになる、若しその不名譽を不名譽  
として省みやうとしないのならば、言靈学の  
宣伝を眞理の宣伝のためにしてゐるのではな  
くして、他の意圖のために眞理の形骸を利用  
してゐるに過ぎないと批評される恐れがある。  
神を知る者は名を惜しむ、眞理の宣伝と紹介  
に携はらうとするならば、先づ自己の名のた  
めにも眞理自体に對して忠實でなければなら  
ぬ。又づから言靈の紹介者にならうとするな  
らば、先づ日本語に熟練し、日本の古史に造  
じ、佛典と漢籍とを併せ讀み、斯道の諸先輩  
の跡を批判した後であることを要する、然ら  
ば此は不可能に近い。日本の團體を輕率に取  
扱ふならば日本の靈が許さない、同時に全世  
界の人類の靈が容赦をしないだらう。愈々こ  
の道の研究者、紹介者、宣伝者の慎重さと謙  
虚さと深甚な反省が必要であることを痛感せ  
ざるを得ない。

眞理を批判し宣伝する上にはおさずりの虚  
世術やお座なりの社交術は不用である。釋問  
答には俗語が用ひられる。釋問者は論議の典  
型的な形式である。日蓮はその立正安國論を  
談話と論議の形式で書いてゐる。自分が此の

様な論議をすることは一面から見れば實はよ  
り大きな言靈学に關する啓蒙であり宣伝であ  
ることを信じてゐる。であるからどうか此  
からはその團體で此の次の冊子が出来たら  
ば自分の所へも贈つて頂きたい、自分の方か  
らも引續いて送るから、お互に缺點と同時に  
長所を揃へ合つて賑やかな論戰を展開したい  
と思ふ。天の岩戸開きとは人類がお互に心の  
扉を開き合ふことである、その扉を開く方法  
が言靈学である、立てられた心の蓋を開くた  
めには議論が最も適當な方法である。初めか  
らお互に懐此合ひの上での議論が出来るなら  
ば更に宣伝効果が尋がることと思ふ。その宗  
教団体では祭壇に鹿島神宮のものと云ふ額を  
祭つて言靈を宣伝すると宣言をしてゐる。自  
分の姓小笠原は鹿島神道の責任者の名である、  
自分は自分の祖先の名に對してもその額につ  
いての責任を感じぬ。言靈学は何人のもので  
もない、天皇のものである、その天皇の大御  
心といふ学校の中で小学生や中学生同志が口  
角泡を飛ばして議論することはまことに意義  
のあることである。

言向け知はしの論議はお互の心の扉を開き  
独断を除去し、隔りをなくして、眞理を、眞

名を交流せしめる道である。日分が中学の教師をして叔父、井当箱の蓋を前に立てて、小さくなつて食事をする子があつた。女の子にさう言ふ生徒が多かつた。さうゆう生徒を見付けると、自分はその子の隣りに腰掛けて自分も井当箱を開いて並んで食へた。その子とお累の取りかへつことをして、いつしよに食べた。そのうちにその子は井当箱の蓋を立てなくなつた。

議論は善吉であつてよい。末世濁悪の社会の病を医すためにはカルフールとサシイメルクールを用ひなければならぬことを默示録は説いてゐる。最近ではそのために紙巻とアルカロイドと、そして各種の細菌が噴し出す毒素さへがワクシンとして用ひられてゐる。精神の病を医すためにも、豫防医学的にも臨床医学的にも善吉的批判が必要時代である。来るべき立の道を直ぐするのために徹底した批判を續けることがバアテスラのヨハネの仕事である。言盤は鋭である、この批判の鋭が天孫降臨の喜劇の行事たる武履祖神の鋭である。われ律法と預言者とを毀たんためにまれりと思ふ勿れ、天りてこれ等を成就せんが爲なり(マタイ伝第五章)

事のついでにいまひとつの例を挙げやう。これも最近四國叢山に關して默示録との關係を説いたある冊子を手にした。著者は叢山に何かあることに最初に気が付いた某氏である。その書物の中には如何なる靈かその人に明いたものが、これこそ天啓なりとも見られるところの珠玉の文字が幾ヶ所か発見される、この事があるからこそ叢山の問綴が今日の状態にまで発展したものであることが肯づけられる。然し吾からは是等の珠玉と珠玉との間に、それとは反対に語学、言語学を無視し、常識を無視した、ぼとんと批評の余地へない程の独断論が充満してゐる、これは甚だ心なき業である。その冊子にはいつれ近日その内容を更に詳細に説明した大師の著作を刊行する豫定であることが記されてある。この促すべく置いてはよくないことであると思つた。

前の小冊子の中の珠玉だけが次に継承される所のはよいが、非常識、無常識な独断論までが同時にそのまま受け継がれたのではやり切れない。それでは第一叢山の意義の發見者として通つてゐるその人の名譽が台無しになるだらう。青年達がその書物を手にした時、その中から本筋を探り當てる前に、その内容の

別冊方法の要領所合に賛否をいいて頭から全部の意義を否認してしまふだらう。斯くして叢山の意義を宣揚しやうとする著者の切實な企てが却て反対の効果を生らす懸念がある。そこで自分はその冊子の中から理窟の通つた部分的な部分と荒唐無稽の部分とを書き抜いて批評を添えてその人に送つて、今後の反省と自重とを勧めた。次に独断と思はれる箇所之二三を掲げやう。括弧内はそれに對する批評である。

ヨセフは大國主命で、モーセは領袖之勇命である(これは現実の人間のことではなく所謂靈魂についてのことと解しても、証文の年代の順序が逆である)

叢山は佛説の針の山である、それは生花に用ふる叢山が針の山であるから(佛説と生花の佛兵の名は直接には結び付かない。針の山を八理の山と佛説を欲き、八尊の意義を持つて来たら初めて結び付く)

玉には待てといふ意味がある、それは子供遊戯で待てといふ意味で「アマレ」といふから(子供の言ふクンマは英語の「一二三」から来てゐる、玉とは關係はない)

獅子はライオンといふからそれは雷音の意

味である(英語の「TO」はラテン語の「TO

の變化である、しオでは聲音にならぬ。

一般に英語といふものは精々三〇〇年位の

歴史しかない言語であるから、これと古代

の日本語や漢字を同日に論じ比較すること

とは誤りである。ヨーロッパ語と比較する

ならば古代ヘブライ語、ギリシヤ語、ラテ

ン語を用ひなければならぬ)

シナイ山は劔山のことである、竹刀をシナ

イと言ふから(それならば劔の劔を何故シ

ナイとは言はぬか)

祖谷(イヤ)は英語の「Y」である、四圍

の耳に當る……面(メン)は英語の「M」

である……セウスのせは英語の冠詞「THE

であるから唯一といふ意味がある(いづれ

も英語だがヨーロッパ語の去来現を通じ

ての全部とでも思つてゐるであらうための

落語にさへもなりさうもない独断である)

所かしはらくしてその會英といふ人から信り

があつて著者の意見を伝へて来た。その著者

の考へ方は間違つてゐない、批評するものの

心境が未熟でそこまで到つてゐないから判ら

ないのであるといふ返事だつた。

以上のやうな理由から、また実例の上から

言葉の研究とその宣依の上に於ては、限られ

た能力の範囲内に明瞭する直観的判斷のみを

絶対とせず、また日本語相互間、日本語と漢

字、日本語と外國語間に於ける意義の連絡の

上に於ても、單なる空虚な語呂合せに終らぬ

様に、また知的直観を根據として理論を立て

る場合にも、その部分が全体の体系の上に如

何に位するかを明かにせし得るやうに、出来

るだけ多くの文獻に徴して必ずその根據を明

かにし、志を同じとする人達と常に協調協力

し、研究内容を照合し、相互に批判し是正し

合つて、能く限りの完璧を期して後、初めて

発表のためなり宣依のためなりに広く發表す

ることが至当である。言葉の宣揚のためには

是非ともこれだけの手數と手續を必要であ

ることを、自分は永年提唱し續けて来た。た

が然し自分の此の提議を肯かうとする者が所

謂言靈學者と称する人々の中にも、今までつ

いそ一人も出て来なかつた。

自分の醫師の矢野大佐は斯う言ふ矣では極

めて純真な人だつた、その活動の後半期は別

として、前半の時期に於ては、その頃自分は

三十歳の青年だつたが、五十歳歳だつた大佐

は、自分が得た判斷や啓示について、それを

そのまま押し賣りしやうとせず、一つくそ

の内容を三十歳の青年に相談して、その是非

を評すことを例とした、青年といふものは經

験は浅いが、青年独特の鋭敏な感性があり、

その感性によろかり正確な直観的判斷力を

具備するものである。故に自己の意見が青年

に肯がはれず、青年に反対される場合は一應

にも二應にも深慮反省が必要である。斯う

した意味の青年の判斷力を尊重し、これを採

用する上に於て矢野大佐の態度はまことに奥

床しいものがあつた。然し現在の、殊に言靈

学の年老ひた研究家、宣伝家達には此の奥床

しさが無い。誰もが少しく言靈學を聞き噓じ

るとすぐに淺學な自惚れ心を起して、自分が

言葉の意義の創始者、啓見者のやうな顔をし

て、独断論を振りまわす、このために言靈學

といふものがいつまでもあげつらい神懸りの

一種であるかの様に思はれて、學問とし

ての社会的地位を構築し難いのである。

言靈學は一個人の私すべきものでなく、ま

た如何なる宗教の宗派、教派にも、如何なる

学派にも属すべきものではない。それは人類

共有の財産であり、その權威の所在は天量に

ある、如何なる個人も法人も此の學を私に用

ふべからざるものである。キリスト教聖書の  
巻末には教理教義を以て賣るべからざる  
ことが明示してある。これと同様の意味で言  
聖学の内容もこれを金錢を以て賣るべからず、  
また無形の價であるところの白色宣伝や教義  
獲得の具に供すべからざるものである。戦後  
元の大主教の匪流者が新聖學教として所在に  
湧現して、夫々多少の社会的成功を得つつあ  
ることを見て、言聖といふ世に余り知られて  
ないうまい材料がみつかつた。これを賣物に  
して自分も一宗派を起して、彼等と同じやう  
な成功を収めやうと副策するならば、それは  
神の何たるかを知らず、國體を知らず、歴史  
を弁へず、因果の恐ろしいことを知らぬ思ひ  
上つた愚人の業である。この事に就ては節号  
でも述べたところであるが、今後ともいよ  
いよ真理の尊嚴を護つて行きたいと思ふ。若  
し輕卒な態度と、思ひ上つた自惚れと、投機  
的財幸心を以て此の權威を犯さうとする時、  
罪はおのづからその人自身に還つて、やが  
て大いなる驕ひをさしなければならなくなるこ  
とを警告して置く。

自分は此の構を提案と忠告とを言聖学の塵  
營に關して今日まで敢擧に續けつつある。け

れども功きやの人一人に収めたいといふ自由  
競争的思念に急なためであらう、時代がまだ  
其處まで熟してゐないたのであらうか。それ  
とも此のまま押し通して行つて第三次世界大  
戰が必至のためであるからだらうか、遺憾な  
がら誰も自分の提案を聞かうとしない。今日  
言聖學に關懐する人は誰と誰であるか。十指  
に足りない數であるにも拘らず、その人達が  
硬として自分の提案に耳を借さうとしないの  
である。けれども若し何人も訊く者が居ない  
ならば聞かなくとも聞はない。敢てその人々  
の粗雑な独斷や体系のまとまらぬ受賣りの促  
し、國體存喪附会のままに宣伝をしようと  
ふならばそれで済まへない。神と神とする  
か否かに拘らず、密きは必ず神の手によつて  
なされる。また同時にその人の功罪は必ずそ  
の人より後から来る者によつて判定される。  
自分より後から来る者、自分より、より若き  
者はやがて自分より、より完全な者であるこ  
ろ、いふ推移の判らぬ者は、實は言聖學を取扱ふ  
資格なき者である。この態度はキリスト公理  
の前提であるベプテスマのヨハネの態度であ  
る。自分より後から来る者の靴の紐を結ぶ用  
意のない者は言聖學の當事者にはなり得ない

ののである。自分は此の構を提案と忠告とを言聖学の塵  
營に關して今日まで敢擧に續けつつある。け

のである。  
自分の提案を肯かはす、自分の忠告に耳を  
傾けたくないならばそれでよい、独斷のま  
ま、國體のまま、受賣りのままで間違つた答  
案を提出するがよい、大主教では学生の論文  
を調査し採点する者は年長者である教師であ  
る。然し言聖學といふ未完成な、けれどもそ  
の答への據り所の判つてゐる學問に關するあ  
らゆる紹介や論議は後から生長して来る若い  
人達が、後輩がこれを採点する。これが生命  
の必然の道である。後から来る者を尊重する  
ことを知らぬ者は生命の何たるかを辨せぬ者  
である。言聖學が生命の學であることを辨せ  
ぬ非言聖學者である。自分より、より完全  
に近きヨハネの出現を期するため、また次  
次により完全なヨハネの出現を將來して、最  
後に完全無缺なキリストの出現を仰ぐために、  
我々は吳々も慎重と謙虛と反省の美德を失つ  
ては成らぬ。

波の標にふるぎ逆立てしき波を言向け和は  
すみかつちの神  
一言奪けて國のまが罪被はなむ草の片葉もこ  
と止むるまで  
世の樂しみに後れてわれは樂しまむ自未得  
度先度他それぞわが道